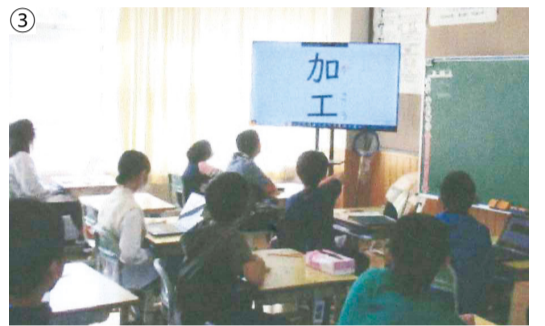


# ベルマーク新聞 11月号

発行 公益財団法人ベルマーク教育助成財団 東京都墨田区両国3-25-5 JEI両国ビル9階 〒130-0026 電話 03-5638-2320(代表)  
郵便振替口座 00100-7-56035 ホームページ <https://www.bellmark.or.jp/>

## ピカピカの備品、子どもたちに届く

### 支援先のへき地学校から感謝メッセージ



備品を活用している写真が続々と届いている ①三島村立三島大里学園(鹿児島県) ②徳之島町立亀徳小学校(鹿児島県) ③函館市立南茅部小学校(北海道) ④高崎市立倉淵中学校(群馬県)

ベルマーク財団が今年度支援したへき地学校から、感謝のメッセージが続々と届いています。

鹿児島県の**三島村立三島大里学園**(山下博文校長、児童・生徒22人)からの手紙には、寄贈した卓球台、Webカメラについて、感想がつづられていました。

同学園は、小学校から中学校に相当する子どもたちが9年間の小中一貫教育を受ける義務教育学校です。1年生から6年生は前期課程、7年生から9年生は後期課程と呼んでいます。

後期課程唯一の部活動が卓球部。これまで使ってきた卓球台は1978年に配備されたものでした。主将の日高梨々花さん(8年)は「新しい台は軽くて運びやすく、練習がはかどります。たくさん練習していきたい」と試合に向けて気合十分。

学校は離島にあるため、Webカメラは重要度が高い備品のひとつです。遠隔授業や外部講師を招いて実施する合同授業などを開くのに欠かせません。山下校長によると、「教室内の児童生徒全員をきれいに映すことができ、これまでよりもスムーズに授業を進められる」そうです。

鹿児島県の**徳之島町立亀徳小学校**(越間むつみ校長、児童127人)へ財団が寄贈したのは、コンピューターミシン、鉛筆削り、ドッチビーなどの備品です。以前から使っていたミシンは不具合のあるものが多く、買い替えたいと考えていたといいいます。届いてすぐ、家庭科の授業で活用されました。写真にはナップサック作りに取り組んでいる子どもたちの姿が写っています。「上糸をかける順

番が分かりやすい」と喜んでいたそうです。「多くの方々からいただいた思いを忘れずに、大切に使います」と記されていました。

北海道の**函館市立南茅部小学校**(深澤昌明校長、児童152人)に贈ったのは、「フラッシュ教材2～6年基礎基本」と「赤白玉」280個。フラッシュ教材は、漢字の読みや四字熟語、面積の公式、地図記号、実験器具の名称などの問題をテレビモニター画面に映し、フラッシュカードのように一瞬で切り替えて表示させることができます。「習ったことを思い出したり、現在学習していることを繰り返し覚えたり、基礎が身についています」と坪谷正樹教頭は話します。赤白玉は来年度の運動会に使う予定とのこと。

群馬県の**高崎市立倉淵中学校**(大塚浩

文校長、生徒71人)にはワイヤレスアンプとワイヤレスチューナーユニットを贈りました。チューナーユニットは複数のマイクを同時に使うときに必要です。

早速大活躍したのが10月21日に開かれた「紅葉祭」。文化祭では、総合的な学習の成果や器楽演奏、英語弁論、読書感想文の発表など、多くの人にわかりやすく伝えることが求められます。大塚校長は、新しいアンプについて「感度や音声も素晴らしかった」と振り返りました。

みんなでなかよく  
大切に使ってね



## 過去2番目に多い123通の応募

### 第37回「ベルマーク便りコンクール」入賞校を3面に掲載

2022年度の「ベルマーク便りコンクール」の入賞校が決まりました。

ベルマーク活動を学校内外に伝える広報物を対象としたコンクールで、1986年から始まり、今年で37回目の開催です。今回は、過去2番目に多い123通の応募がありました。コロナ禍が長引く中でも活動を続け、応募してくださいました皆さんに感謝いたします。

内容の分かりやすさ、レイアウト、発行回数、読者が楽しみながら読めるかななどをポイントに財団職員8人

が審査し、優秀賞11点、佳作7点、特別賞4点を選びました。手描きのイラストが盛り込まれたお便りや、校舎の一角にベルマークコーナーを作ってお知らせを掲示している写真、学校ホームページのブログ、SNSを使った画面のスクリーンショットなど、オリジナリティにあふれた作品が多くあり、審査には頭を悩ませました。入賞校はこの新聞の3面に掲載しています。

ベルマーク便りコンクールは来年度も開催します。ご応募をお待ちしています。



優秀賞を受賞した神奈川県逗子市立沼間小の作品。この号ではテトラパックを特集して、協力を呼びかけている